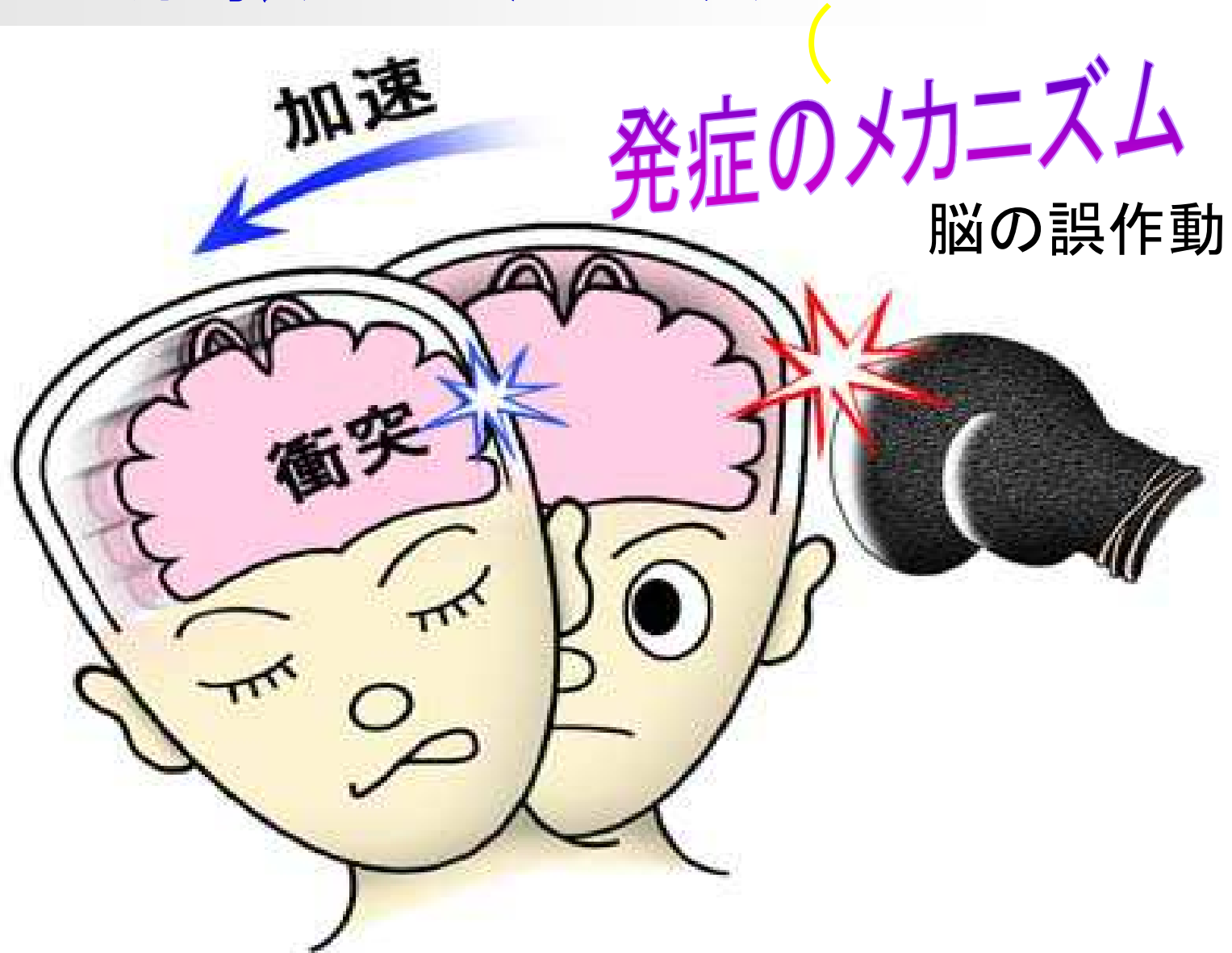


これも大切脳振盪の知識



脳振盪の起こり方





その症状は

(1) 外傷性健忘

頭部打撲の直後にプレーを開始したが、本人は事故について覚えていない

(2) 意識障害

現在の場所や時間などを正しく認識できない精神の混濁が現れる

[注]意識の喪失は脳振盪の必要条件ではありません



脳振盪は重篤な病態につながっている

- ① 脳振盪を繰り返すと、認知障害や社会不適応などを起こすことがある
(**post concussion syndrome**)
- ② 初回の脳振盪から完全に回復しないうちに、二度目の脳振盪を受傷すると致命的になることがある
(**second impact syndrome**)
- ③ 脳振盪はそれに引き続く、脳血腫などの重篤な傷害の前触れである可能性がある
(**acuta subdural hematoma**)

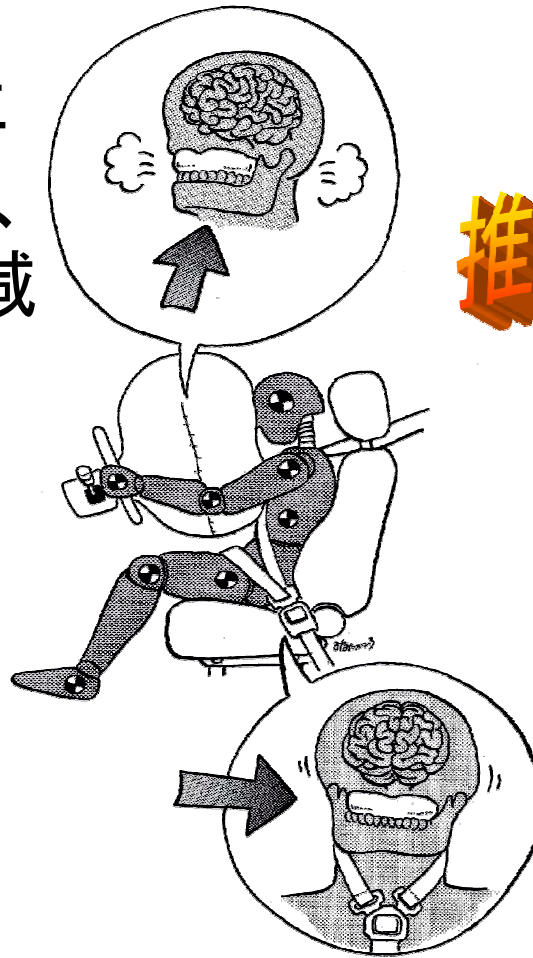


重篤な症状である急性硬膜下血腫

急性硬膜下血腫（架橋静脈の破綻出血）は、スポーツによる頭部外傷に最も多い血腫で、死亡する確率も高いものです。受傷後に意識が鮮明な時期がありますが、出血による脳の圧迫から短いときには**10分**くらいから、長いものでは数時間から数日後に意識が混濁し始めます。そのため受傷選手は、少なくとも受傷後**24時間**は本人一人にせず、誰かが付き添い、経過を観察した方が良いでしょう。

マウスガードの脳震盪軽減作用

エアバッグのように
顎の衝突を和らげ、
頭のダメージを軽減
します。



推定されています

安全ベルトのように
頸部を固定し、頭が
振られるのを防止し
ます。

スポーツ選手の脳振盪に注意！

作成：日本スポーツデンティストクラブ
指導：大分スポーツ学会 森照明

その1 質問テスト



「今何週目？」
「今日は何曜日」
「競技場の名は？」
などの問いに応答
不能はクロ判定

その3 バランステスト



片足立ちを20秒
以上保持できない
場合はクロ判定

その2 神経学的テスト



- ①目線が揺れて
定まらない
 - ②手足に力が入
らない
- 以上はクロ判定

その4 錯乱行動



制御不能の行動
をとる場合は選手
とチームにプレイの
中止を勧める